

### (Ⅲ) 生活援助事業部 (ホーム いろえんぴつ)

#### 1. 居住支援課 事業報告

ホーム いろえんぴつ

ホーム長 藤波 淳子

##### (1) 共同生活援助事業 (グループホーム) 報告

平成 23 年 7 月 1 日「ホーム いろえんぴつ」は、法人独自の事業として開設した。「障害のある人が住み慣れた地域で安心した生活を送る」が基本理念である。3 年ほどが経過した。その間、障害者を取り巻く法制度も大きく変わり、障害者自立支援法から障害者総合支援法に変わり、障害者の範囲が拡大し障害程度区分も変更になった。「ホーム いろえんぴつ」がこれまで実施してきたグループホーム・ケアホームの両事業も「グループホーム」に一元化される。世田谷区内では、障害者のための入所施設やグループホーム等が絶対的に不足しているが、次年度には、烏山や成城方面に、新規にグループホーム等が建設される予定である。

「ホーム いろえんぴつ」開所当初からの 7 名の入居者は、安定した生活を送っている。ベースになる個別支援計画では、運営理念である『一人ひとりの(あした)に向かって自立した私らしい生活づくり』を実現するために、生活の安定や日中支援機関との連携に力を入れた。入居者一人ひとりのニーズを十分聞き取り作成してきた。個別支援計画の形式の見直しも行った。利用者が主体的な「生活づくり」に参加するために職員間で検討をした。丁寧なアセスメント(聞き取り・面談)を行い、利用者を中心に家族と話し合い、これまでの個別支援計画書のほかに、利用者イメージ化しやすい計画書を作成した。それぞれの障害程度に合わせ、内容にイラストを入れるなど分かりやすい工夫をして「利用者向け個別支援計画書」を作成した。記載されている内容は同じでも、利用者向けの「わたしのみらいけいかく」は、目標や目指す方向などが明確に理解できるものになった。面談時、家族・ケースワーカー・日中サービス事業所職員の前で読み上げている姿は、自信に満ちあふれていた。本人と関係者全員で確認した「わたしのみらいけいかく」は各自の居室に掲示している。

一方、職員は、日々の支援を個別支援計画書を基本にして適切な支援ができるように努めた。ケース記録の項目を個別支援計画の項目とリンクさせ、日々の支援が入居者のニーズを満たすように記録に落とし込んだ。この「ホーム いろえんぴつ」の個別支援計画書は、「平成 25 年度 第 5 回東京都障害者通所活動施設職員研修会」において、パネリストとして発表の場を得ることができた。このような場で実践発表ができたことは職員にとっても有効であった。

「ホーム いろえんぴつ」生活 3 年目を迎えた入居者は、利用者会(自治会)によってさまざまな問題を利用者自身で解決し、イベントの計画を自主的に行えるようになっていく。各自が自分のスタイルを確立してきた。職員等は 24 時間 365 日、起床から就寝、夜間の様子を見守りしているが、そんな時、利用者から自然に、退勤時「ごくろうさま」と感謝の言葉をかけてくれるようになってきた。職員は仕事をする上で励みになる瞬間だった。「おはようございます」「おかえりなさい」「いただきます」「おやすみなさい」など挨拶によってホームの雰囲気明るくなる。法人の月間目標にもある挨拶は、私たちが力を入れてきたひとつであり「ごくろうさま」という挨拶も信頼関係が構築され、何より利用者との関係性が築けた証である。

休日、ホーム内での生活の充実・拡大は、移動支援を利用した。入居者 7 名中 5 名が保護者や日中サービス事業所と連携し、ガイドヘルパーと定期的に外出できた。また 1 名の方が世田谷区事業



の緊急介護人制度を活用し、月2～3回余暇活動支援を受けている。個別支援計画書の健康面で体力維持が目標となった入居者も、次年度には活用できるようにしていく。定期的に楽しみがあることでより生活が豊かになり、体調不良の訴えが軽減してきた利用者もみられた。

作業所への通所歴32年を迎えた利用者が、年度前半頃より作業意欲が低下し、他の利用者と同ペースが合わなくなった。同時に本人の登所拒否や食欲減退などみられてきた。協力医療機関に紹介状を書いてもらい大学病院において検査を行った。その結果、身体の異状ではなく気力低下の症状であった。登所拒否だからといって日中ホームの中で過ごすだけではますます体力が衰えていくため、成年後見人や作業所、担当ケースワーカー、障害支援局長と協議を行い、本人にとって日中の場はどこが適切なのか検討した。通所に問題が出ていたこともあって、送迎バスの運行がある生活介護施設の実習をスタートしてみた。実習をすと思った以上に本人の反応がよく、嫌がることもなく笑顔で活動していた。世田谷区利用調整会議を経て移行が決定し、今後は本人が新しい環境に慣れるまでいねいに支援していく。

就労している入居者が就労先の定期健康診断で再検査という指示があり、通院同行し協力医療機関で受診後専門医に紹介状をもらい再検査を行った。家族と連携して、いつまでも元気に働き続けられるように職員一同で支援した。入居者の健康状態や障害の変化に伴う対応に関して、協力医療機関『瀬田診療所』と連携する重要性が増した。医療面の的確な指示や適切な医療支援は心強い。歯科受診においても歯みがき指導も含め定期的にホームに来てくれる訪問医療を行ってもらっている。今後も健康維持に配慮した支援を行っていく。

よい支援には職員の資質の向上が欠かせないと考え、今年度は人材育成に積極的に取り組んだ。外部職員研修にも可能な限り多くの職員に参加してもらった。研修後、利用者支援会議の中で報告・発表し職員全員で成果を共有した。障害者総合支援法の研修や虐待防止研修、障害特性など専門性を学ぶ研修の他に、緊急時の対応を取得するため、東京防災救急協会主催の「小規模社会福祉施設の防火実務講習会」には職員全員が順番に参加した。高齢者・障害者などが入所施設で安心して暮らせるように、防火管理の充実、発見・通報・初期消火・救出方法の講義と実務訓練を行った。講習会では「ホーム いろえんぴつ」における災害時を具体的に想定し、どう活かしていくか考える機会が得られた。

### 【入居者の実態】

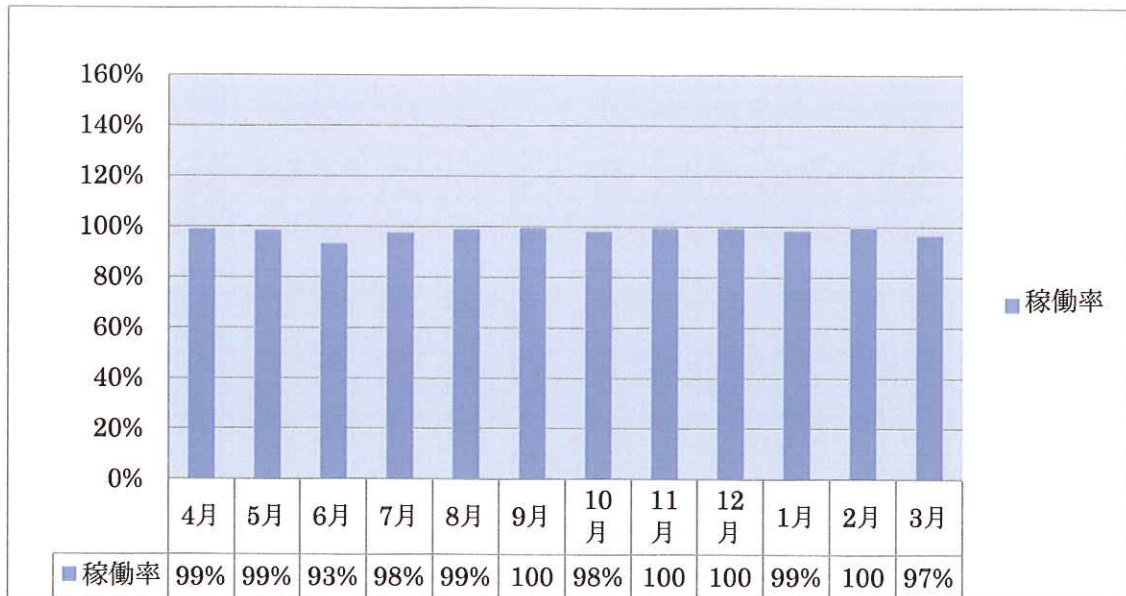
#### ① 障害支援区分

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
	2名	2名	3名			7名

#### ② 入居者年齢表

年齢	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50	50～55	55～60
人数	1				1	3	2

### ③ 稼働率



※100%未满是土日祝日、自宅へ帰られる利用者の状況がある

#### 〔個別支援計画・面談実施状況〕

入所当時のアセスメントや計画をもとに立案した。保護者の方にホームでの様子を見てもらうため来所していただき実施した。

実施日	場所	主な確認内容
7月10日	ホーム いろえんぴつ	健康管理・余暇時間・対人関係
7月10日	法人会議室	就労先との連携・金銭管理・災害時の対応
7月12日	ホーム いろえんぴつ	健康管理・移動支援の利用
7月24日	ホーム いろえんぴつ	栄養管理・対人関係・環境整備
8月8日	ホーム いろえんぴつ	健康管理・対人関係・余暇時間
8月23日	法人会議室	精神面のケア・金銭管理・家庭環境
12月9日	ホーム いろえんぴつ	施設間移動・健康管理・金銭管理

#### (2) 短期入所（ショートステイ）報告

2年目を経過した短期入所（ショートステイ）は地元地域の方々に周知され、利用申し込み者が増加し100名余の契約者数になった。利用目的は、主に「今後のことを考えショートステイに慣れる」「家族の予定やレスパイト」で利用される方が多い。家族の突然の入院など緊急的に預かるケースも多く対応した。保健福祉課ケースワーカーや日中サービス事業所、他のショートステイ施設と連携し、出来る限り受入日を調整・確保し対応した。また保護者の健康上の理由で自宅生活が困難な方が、週末だけ定期的に利用するというケースも発生した。今後さらにこのようなケースが増えるのではないかと考える。

重度障害者の生活介護施設からの利用のほかに、就労されている方の自立訓練を目的としたニーズも増えた。中には初めてショートステイを利用される方も多く、保護者は今まで利用を考慮していたものの踏み出せずにいたが、保護者の高齢化だけでなく利用者の高年齢も顕著にあらわれ、必要性を感じてきたものと考えられる。重度障害者に対して丁寧で安全な支援を目指すためには、指定重度訪問介護事業所との連携が不可欠で、ホーム いろえんぴつの環境で安心して生活してもら



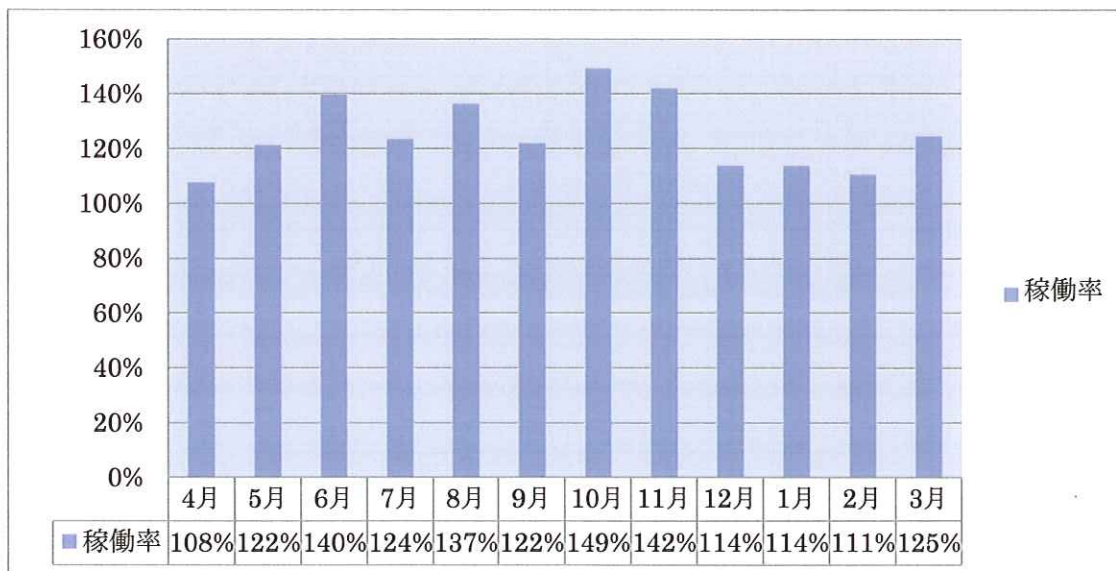
うためヘルパーの導入を行った。リピーター利用も定着されつつあり、自宅に帰ってきたような笑顔で「ただいま」と入所する利用者の成長ぶりが実感できる。明るく楽しい雰囲気のリピーターに繋がっていくと思うので、さらに笑顔で迎える施設作りを目指していく。

### i ショートステイ区分別利用状況

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
4月	—	2	8	7	2	2	21
5月	—	8	8	9	2	2	29
6月	—	7	7	10	3	2	29
7月	—	6	7	7	3	2	25
8月	—	6	12	10	3	1	32
9月	—	5	8	8	3	1	25
10月	—	4	6	8	3	1	22
11月	—	4	10	11	3	2	30
12月	—	5	9	8	3	1	26
1月	—	5	6	8	2	1	22
2月	1	3	5	9	3	1	22
3月	1	7	7	7	4	—	26
計	2	62	93	102	34	16	309

### ii ショートステイ稼働率

平成25年度も100%を超えて稼働を推移できた。4月から徐々に稼働率が上がり、10月は149%という高い稼働率になった。年末年始に稼働率が減ったのは都内を襲った天候等によるキャンセルと家庭の自己都合であった。できるだけ空室を少なくするために、退所時に「ご利用報告書」とともに2か月先までの「空室状況」の情報と、再度「ファックス申込書」を持ち帰ってもらい、継続的な利用に繋げることができた。連携している玉川福祉作業所保護者には保護者会を利用して情報提供した。最終年間平均稼働率は、前年度比（平成24年度）115%をさらに超え126%を達成することができた。



### (3) 日中ショートステイ

開所1年後に始めた世田谷区独自事業日中ショートステイは、法人ホームページをご覧になった方からの問い合わせが増えた。利用は学校の休業日に集中し、夏休み、冬休み、春休みに受け入れを行った。利用者の中には身体手帳所持者も含まれていたため、安全に配慮し、食事提供時には刻み食など個別対応を行った。今後もさまざまなケースに対応できるよう、障害特性や医療に関する内部・外部研修を積み重ね、幅広く対応できるようにしていきたい。

利用日	時間	定員
月～金（祝祭日休み）	10:00～15:00	3名

#### 日中ショート 月ごとの利用者数(延べ数)

利用者数		内訳
4月	1人	女・13歳・区分2（4/2利用）
7月	3人	男・7歳・区分2（7/25・30利用）
		女・15歳・区分3（7/31利用）
8月	5人	女・15歳・区分3（8/1・27利用）
		女・13歳・区分2（8/20・28利用）
		男・12歳・区分2（8/2利用）
9月	1人	男・12歳・区分3（9/24利用）
12月	1人	男・12歳・区分2（12/27利用）
1月	1人	男・5歳・区分3（1/24利用）
3月	1人	男・11歳・区分3（3/26利用）
合計	13人	幼児1人 小学生5人 中学生4人
	男6人 女4人	区分2:5人 区分3:5人

## 2. 会議報告

### (1) 運営委員会（管理者・世話人）

実施日		主な内容
4月9日	第1回	入居者の成年後見人・服薬管理・研修会への参加・外食の実施
4月19日	第2回	てんかん発作時の対応・入居者の健康管理・安全対策
5月16日	第3回	SOSカード・SS重度利用者への対応・人事考課
7月23日	第4回	玉福宿泊行事・熱中症対策・法人行事
8月10日	第5回	SS利用者への個別支援・ホーム内設備・花火大会
9月3日	第6回	入居者への個別支援・実績記録表
10月28日	第7回	博水の郷文化祭・感染症対策・ホーム内の収納整理
11月11日	第8回	人事考課・SS利用者への個別支援・感染症対策
12月1日	第9回	内部監査・入居者への個別支援・居室リネン類の扱い方
1月7日	第10回	作業所個別面談・本年の目標・資格取得・移動支援の利用
2月5日	第11回	降雪時の対応・他施設見学・余暇時間の活用
3月28日	第12回	入居者の個別支援・職員人事



(2) 職員会議（管理者・世話人・支援員）※職員全員出席

実施日		内 容
4月 1日	第1回	障害者自立総合支援法の施行・大規模災害訓練・SS前年度稼働率・法人ホームページの開設
5月 7日	第2回	作業所とホームの連携・玉川支援ネット学習会・本年度事業計画・法人前年度決算
6月 3日	第3回	入居者の近況・てんかん発作への対応・部課長会議報告・職員研修の重要性・重度SS利用者への対応
7月 1日	第4回	開設3年目を迎えて・作業所の状況・今後の行事予定・法人高齢新規事業
8月 5日	第5回	他施設見学の報告・防災対策・法人監査の報告・青森交流会の報告
9月 2日	第6回	防火実務講習の報告・利用者自治会によるホームのルール・入居者の施設間移動・虐待防止法の研修報告
10月 2日	第7回	入居者の鍵の自己管理・ホームの金銭管理・入居者の生活の変化・各行事の報告
11月 5日	第8回	感染症への対策・生活支援ホーム見学・博水文化祭・作業所の利用調整
12月 2日	第9回	リスクマネジメント・個別支援計画・職員の支援力の向上・利用者の服薬・ホームの清掃
1月 6日	第10回	内部監査・インセンティブについて・虐待防止取り組み・作業所の個別面談・入居者の意識調査
2月 3日	第11回	都通研研修の報告・作業所の施設公開・処遇改善・個別支援会議の報告・日中SSの報告
3月 3日	第12回	法人サービス検査部報告・入居者の近況報告・SS稼働率・防災訓練

(3) 利用者支援会議<入居者ケース会議>（管理者・世話人・支援員）※職員全員出席

実施日		参加職員数	主な内容
4月 1日	第1回	8名	居室担当職員の変更・誤薬事故への防止策
5月 7日	第2回	8名	入居者の体調管理・栄養管理
6月 3日	第3回	8名	個別支援計画書・SOSカードの配布・食事メニュー
7月 1日	第4回	7名	夏期の感染症対策・入居者の余暇時間と行事
8月 5日	第5回	7名	入居者の金銭管理・職員の言動行動
9月 2日	第6回	7名	ホーム内の防災システム・個別支援会議
10月 8日	第7回	8名	食材の発注・ホーム内の清掃
11月 5日	第8回	8名	冬期の感染症対策・
12月 2日	第9回	8名	個別支援計画のモニタリング・避難経路の確認
1月 6日	第10回	7名	討議「障害者とは何か？」
2月 3日	第11回	7名	個別支援会議・専門職の倫理観・処遇改善
3月 3日	第12回	8名	発表(福祉職に就いた動機・仕事をしていて心地良いと感じる時間)・5分間スピーチ

#### (4) 各業務担当者会議

##### <行事委員会>

実施日		参加職員数	主な内容
5月14日	第1回	2名	お楽しみ食事会
6月3日	第2回	2名	カラオケ大会
7月6日	第3回	2名	誕生会・お楽しみ食事会
8月9日	第4回	2名	多摩川花火大会・お楽しみ食事会
8月29日	第5回	2名	誕生会・お月見会
9月22日	第6回	2名	誕生会・お楽しみ食事会・カラオケ大会
10月26日	第7回	2名	お楽しみ食事会
11月24日	第8回	2名	クリスマス会
12月20日	第9回	2名	初詣&新年の目標
1月17日	第10回	2名	節分(豆まき)・外食
2月12日	第11回	2名	お疲れさま会
3月5日	第12回	2名	誕生会

##### <衛生委員会>

実施日		参加職員数	主な内容
4月12日	第1回	2名	バイタル測定
5月20日	第2回	2名	誤薬時の対応・救急箱の整理
6月28日	第3回	2名	食中毒対策
7月27日	第4回	2名	食中毒対策・利用者の嚥下機能
8月29日	第5回	2名	感染症対策
9月30日	第6回	2名	感染症対策・ホーム内消毒
10月4日	第7回	2名	感染症対策
11月12日	第8回	2名	感染症対策
1月5日	第9回	2名	感染症対策・職員の検温
3月12日	第10回	2名	配薬ボックス・衛生用品

##### <環境委員会>

実施日		参加職員数	主な内容
4月1日	第1回	2名	防災・防災用品について
5月31日	第2回	2名	防災・無線訓練マニュアルについて
6月3日	第3回	2名	環境・防災倉庫と館内設備について
7月1日	第4回	2名	防災・訓練について
8月20日	第5回	2名	防災・施設の外回りの環境について
9月19日	第6回	2名	防災・防災倉庫整理について
11月1日	第7回	2名	防災・訓練内容と非常食について
12月2日	第8回	2名	環境・取説と食堂床下倉庫について
2月5日	第9回	2名	環境・収納棚について
3月20日	第10回	2名	今年度の防災・環境の進捗について



### <生活支援委員会>

実施日		参加職員数	主な内容
5月 2日	第1回	2名	SS情報の分類整理・個別支援計画書の作成
5月17日	第2回	3名	SOSカード・後見人制度
6月 1日	第3回	3名	バイタルチェック・ 個別支援計画書「わたしのみらいけいかく」
7月28日	第4回	2名	ホームでの生活のルール作り
8月15日	第5回	2名	作業意欲の低下への対応
8月24日	第6回	2名	居室の鍵の自己管理
9月 9日	第7回	3名	健康管理
9月30日	第8回	3名	就労先でのトラブル・玉福まつりについて
10月28日	第9回	2名	感染症対策
12月23日	第10回	2名	移動支援の利用・入居者の年末年始の予定
2月10日	第11回	2名	利用者の洗濯・整容・健康管理
3月 1日	第12回	2名	口腔ケア・防災訓練

### <食事委員会>

実施日		参加職員数	主な内容
4月28日	第1回	3名	調味料・ふりかけなどについて
5月 7日	第2回	8名	個別の主食・副菜提供量
6月 3日	第3回	3名	担当業務役割分担・今後の見直しと改善策
8月 5日	第4回	7名	揚げ物の購入・食材処分方法・ 献立メニューの撮影・ストックプレート
9月 2日	第5回	3名	ネットスーパー導入・調理道具購入検討
9月 6日	第6回	2名	食事日誌の変更・レシピの考案・ 食材注文・調理の情報
10月 8日	第7回	4名	ネットスーパー・グリーン食数表・食事新聞
11月 1日	第8回	3名	余り野菜の活用・献立作成とUSB活用・ ネットスーパーお得メール
11月21日	第9回	3名	定期購入、追加注文時について・ 献立表記・冷凍野菜の活用
12月 6日	第10回	3名	メニュー変更・調理器具・食材申請・ 精算方法・感染対策（調理時注意）



### 3. 行事報告

今年度は、テーマを決め定期的に開催することができた。「日本列島おいしいものの旅」と称し県発祥の食事をテーマに利用者と手作り食を楽しんだ。

実施日	行事名	参加者数
4月27日	4月誕生会	8名
5月4日	焼肉パーティー	8名
5月18日	利用者5年勤続表彰 お祝い会	3名
6月1日	カラオケ大会	5名
6月22日	お楽しみ食事会（大阪たこ焼き）	9名
7月13日	7月誕生会	4名
7月27日	お楽しみ食事会（長崎佐世保バーガー）	8名
8月17日	多摩川花火大会	9名
8月25日	お楽しみ食事会（広島お好み焼き）	3名
9月7日	お月見会	5名
9月22日	お楽しみ食事会（宇都宮手作り餃子）	8名
9月23日	9月誕生会	8名
10月10日	玉福祭り	3名
10月13日	カラオケ大会	6名
10月27日	10月誕生会&お楽しみ食事会 （北海道 鮭のちゃんちゃん焼き）	10名
11月10日	博水の郷文化祭	7名
11月24日	お楽しみ食事会（京都風おでん）	8名
12月14日	12月誕生会	9名
12月23日	クリスマス会	10名
1月1日	初詣&新年目標	10名
2月2日	節分	9名
2月22日	外食	4名
3月29日	お疲れさま会	7名

### 4. 防災訓練

実施日	内容	参加者数
4月28日	三角巾の使い方（利用者体験）	8名
5月26日	災害発生時の初動確認（クイズ形式）	8名
6月30日	避難訓練（火災想定）	7名
8月3日	避難訓練（火災想定）	8名
8月31日	避難訓練（火災想定・火災報知器鳴動）	9名
9月28日	防災頭巾着用訓練（頭巾を新規購入）	10名
10月26日	防災頭巾着用訓練、防災袋内容物点検	7名
11月30日	緊急時における緊急避難場所の設定と避難訓練	9名
12月29日	緊急避難場所・避難訓練	8名
1月26日	緊急避難場所・避難訓練（火災想定）	8名
2月23日	緊急避難場所・避難訓練（火災想定）	8名
3月30日	緊急避難場所・避難訓練（火災想定）	10名

## 5. 職員研修状況等

法人内部研修・外部研修を計画、実施し、新法に関する研修や支援サービスの質の向上を図るための障害特性研修、他施設の見学など、今後の施設の課題解決に向けて可能な限り参加に努めた。研修後、支援会議を通じて全職員に共有化を図った。

日時	研修名	主催	人数
5月23日	「障害者総合支援法と利用者援」	都通研	2名
7月17日～ 7月19日	「玉福 交流会」	大三島育徳会	2名
8月6日	「てんかん基礎講座」	日本てんかん協会	3名
8月9日	「防火実務講習会」	東京防火救急協会	2名
8月14日	「虐待防止・権利擁護研修」	大三島育徳会	2名
9月19日	「地域自立生活を支援する」	東社協・都通研	1名
9月27日	「当事者の思いを聞く」	都通研	2名
10月3日	「感染症対策セミナー」	世田谷保健所	2名
10月4日	「防火実務講習会」	東京防火救急協会	2名
10月7日	見学「玉福職員研修」	大三島育徳会	1名
10月10日 10月17日	見学「生活支援ホーム世田谷」	大三島育徳会	8名
10月30日	見学・実習「ひかり作業所」	大三島育徳会	2名
11月12日	「短期入所事業者」	東京都福祉保健局	1名
11月25日	「防火実務講習会」	東京防火救急協会	2名
12月12日	「防火実務講習会」	東京防火救急協会	1名
12月12日	「合同学習会」	都通研	1名
12月18日	「障害者虐待防止・対応研修」	世田谷区	1名
12月18日	「G・H世話人研修」	東社協	1名
1月14日	「世田谷区で自分らしく暮らす」	自立支援協議会	1名
1月24日	「嚙下障害の理解とケア」	総合福祉センター	2名
1月28日	「個別支援計画を改めて考える」	都通研	2名
2月20日	「今、虐待を考える」	発達障害支援協会	2名